

飛鳥だより

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしく願い申し上げます。

さて、今から十年以上前から「利用者・親の高齢化、要介護者の増加」について注目されてきました。その対策としては、いかにして「利用者さんの生活環境を継続していくか」が重要な課題として挙げられてきました。「地域移行支援」の名のもとに様々な能動的アプローチによる支援が推進されてまいりましたが、その一方で、「自立生活支援」・「地域定着支援」といった受動的な支援も並行して取り組まれてきました。しかし、現状では未だに画一的なサービスを中心とした支援者側の都合を優先とした形態が大半を示しております。グループホームを例に説明しますと、利用者さんの重度化・高齢化に即した体制の整備が課題となっております。グループホームの対象者の具体的な要件はなく、利用者さんは障害別、支援区分、年齢など様々です。運営形態や支援形態も様々で、医療的ケアが必要な利用者さんを受け入れるグループホームがある一方で、アパート型のグループホームも存在しています。利用者さんの希望を踏まえた地域生活を推進する観点から、グループホームや一人暮らしや家族との生活を支える地域生活支援策の在り方を検討すると同時に、障害特性や支援区分を踏まえた支援の質や運営の確保が大変重要となります。今後の方向性としては、本人が希望する地域生活に向けて支援することを制度の目的とした類型の創設と多様な住まいの場における地域生活支援施策の拡大が必要となってくるのではないのでしょうか。

当苑では、昨年十月より「重度心身障害児(者)通所支援事業」を北区と協議の上、生活介護事業の枠の中で開設しました。そのために常勤の看護師を三名と非常勤看護師・PT・OTそれぞれ一名ずつ配置して、利用者さんの高齢化・重度化に対応できるように整備してまいりました。また、数年前から計画してまいりました「地域生活支援拠点事業」の整備完了を待って本年四月より事業を開始いたします。主な内容は、相談支援業務の充実・緊急時の受け入れの拡充(受け入れ定員の増とより迅速な対応)・体験入所の開設(多目的利用も視野に入れた取り組み)となります。

第42号
就労・生活支援センター
飛鳥晴山苑
令和4年1月1日



併せて平成二十一年より実施してまいりました居宅介護事業とも連携しながら、

一、地域で安心して暮らして頂けるための体制の構築。

二、地域を一つの面として捉え様々な福祉需要や制度の狭間にあるニーズに対し漏れなく応える。

障害者支援施設(旧入所施設)の現状は施設全体の利用者像が大きく変化し、全利用者の約八十%は区分五以上です。背景には、重度・最重度者に対する加算の充実、軽度者の退所による定員の空き、それまで入所が厳しかった最重度者の利用が促進されています。措置制度時代の入所施設は、身体、知的共に「更生」を主たる目的としておりました。これが目的の施設では、生活の質という観点は極めて弱く、問題は棚上げにされてきました。戦後五十年余り続いた措置制度のもと定着した事業者側の施設運営認識は、いまだに払拭されていません。施設運営の在り方を柔軟かつ創造的に構築する風土の醸成が必要だと感じます。一般的な地域生活と施設生活の落差を表現しますと、施設生活は

- 一、集団のスケジュールが優先される『時間の落差』
- 二、様々な行為や持ち物が制限される『規則の落差』
- 三、指示、命令系の言葉が飛び交う『言葉の落差』
- 四、有意義な個人的行為、活動を取り上げる『役割の喪失』

以上のようなことが挙げられます。このようなことから私が申し上げたいことは、「利用者の皆さんが将来望む暮らしの選択肢はたくさんあります。」そして事業者は、「出来る限りサービスメニューを多く準備しておくこと。」このことでもあります。

最後にこの数年、当苑の家族会でもあります、さら会の出席者が以前より少なくなってきたております。コロナの感染拡大防止や緊急事態宣言のため開催が不定期だったこともその要因となったことは否めません。しかし、利用者さんだけではなく、ご家族の皆さんも含めた希望する暮らしを実現していくためには、たくさんさんの情報と意見交換、そして連携が必要だと思えます。本来家族会は、施設側が強制するものではなく、ご家族の皆さんの意思統一の場でもあります。お忙しいとは存じ上げますが、趣旨をよくご理解の上、参加していただけるよう、ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

施設長 高井 清志

わくわく活動

十一月の土曜日、わくわく活動で二階生活介護事業ではチヂミ作りを行いました。具材は予め切っておいて、皆様にはそれぞれ好きな具材を選んで頂きました。具材にはニラや人参、玉ねぎやシーフードミックスがあり、皆様どれを入れようか悩まれていました。具材を選んだ後はボウルに入れて混ぜ、ホットプレートで焼き、良い焼き加減になったらひっくり返します。ひっくり返すのもチャレンジしていただき、皆様真剣な眼差しでひっくり返していました。最後に調味料等をかけて、召し上がって頂き美味しく召られていました。

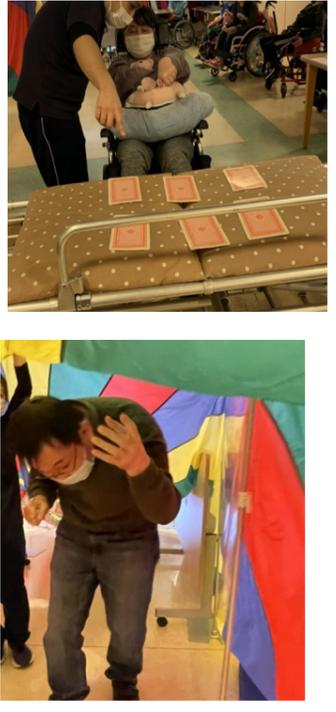
二階生活介護事業 西山龍



一階ミニスポーツ大会

一階生活介護は、十一月四日(木)にミニスポーツ大会を行いました。今回の競技は障害物競争でした。トンネルくぐりから始まり、カートの絵柄合わせやコーンを立てて八の字走行、ジャンケン勝負等盛りだくさんの内容を個人戦で競っています。競技の中盤までは順調だった方でも、ジャンケンの番人(職員)が強すぎて「全然進めない！」と嘆く方もちらほら……。予想のつかない展開に皆さん大盛り上がりでした。上位三名には参加賞とは別に特別な景品があり、皆さん「絶対もらおうぞ！」と意気込んでいましたが、他利用者さんの競技中はしつかり応援していただき、和やかな雰囲気の中で競うことが出来ました。今回も苑内での開催となりましたが、例年に引けを取らない盛り上がりとなりました。皆様お疲れさまでした。

一階生活介護事業 影山友香



交流会(いもほり体験)

十一月三十日、生活介護事業と就労継続支援B型事業にて、じゃがいも掘り体験を行いました。プランターの中に土とじゃがいもを入れ、皆さんでじゃがいも掘りを楽しみました。スコップを使って、土の中を掘り、「中々出てこないな」「見つけたよ」と様々な声が聞かれ、取ったじゃがいもを手に持ち、「取れたよ」と皆さんの笑顔が見られました。その後じゃがいも料理として、じゃがバターを召し上がっています。おいしそうに召し上がっている様子が見られて、職員も嬉しかったです。実際の畑に行くことは難しいですが、工夫をしながら皆さんで楽しめる行事をこれからも考えていきたいと思えます。

一階生活介護事業 田口紗耶香



下半期行事について

- 1月
 - ・6日(木)…成人を祝う会
 - ・25日(火)…もちつき
- 2月
 - ・1日(火)…節分

※その他、モダンバレエ、外部講師によるお楽しみ活動、わくわく活動などを予定しております。

※コロナウイルスの関係で中止になる可能性があります。

発行元 社会福祉法人 晴山会

就労・生活支援センター 飛鳥晴山苑

東京都北区西ヶ原4-51-1
TEL 03(3940)9181
TEL 03(3940)9181
FAX 03(3940)9185

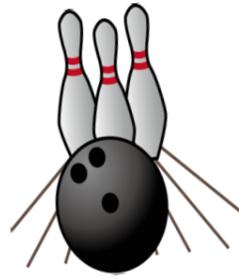


一階生活介護

とある日の一階生活介護での活動の様子です。この日は皆さんでボウリングを行いました。男女混合で二チームになり、職員も混ざって一緒に盛り上がっています。「がんばれ!」「おー!」「おー!」と声援や歓喜を出しながら楽しんでいます。サポートが必要な方は職員が秘密道具(雨どい)を使用し、手添えで転がしていただいています。うまくピンが倒れると嬉しそうな表情を見せてくれています。

皆さんが楽しく活動できるように日々試行錯誤しながら取り組んでいきたいと思えます。

一階生活介護事業 大塚美和



二階生活介護

二階生活介護では先日、三カ月に一度の誕生日会を行いました。今回は、十月と十二月生まれの方を皆さんでお祝いをしています。

レクリエーションでは、箱の中からお菓子を見つけ出すゲームをしています。「頑張れー!」「やったねー!」と他の利用者さんを応援してくれたり、見つけ出すと嬉しそうに笑っていたりと、楽しい会になりました。最後にはバースデーソングを歌い、皆さんでお菓子を召し上がっています。

こういったイベント時にはよりたくさん皆さんの笑顔が見ることができ、職員も嬉しく思います。

今後も皆さんと一緒に楽しんでいける活動を行なっていければと思います。

二階生活介護事業 奈良純夏



ハロウィン

十月二十八日は、生活介護の利用者さんを対象に、ハロウィンパーティーを行いました。みんながかぼちゃのオバケや魔法使いなど、様々な仮装をして職員手作りのレクリエーションで普段とは違う活動を楽しみました。オバケ釣りやオバケボーリング、怪物の口にボールを入れるゲームなどを順番に行っていたいき、皆様と「ハッピーハロウィン!」「トリックオアトリート!」と声を掛け合ったり、応援し合いながら明るくにぎやかな様子で活動を楽しんでいただきました。当日のおやつはハロウィン特製のかぼちゃのシフォンケーキにクリームを添えて召し上がっております。おもしろい表情や、ニコニコと元気な様子で利用者さん、職員共々、笑顔あふれる一日にすることができました。

二階生活介護事業 武井正和

クリスマス会



今年も待ちに待ったクリスマス会がやって来りました。最後のイベントを締めくくるのはクリスマス会です! 今年たくさんの方に楽しみにして頂いているのではないのでしょうか? 皆さん朝からワクワクしている様子で、ご家庭でも「ケーキを楽しみにしています。」など、心待ちにされている声を多く頂きました。一階生活介護では、職員がサンタクロースとトナカイになってお菓子のプレゼントを配りました。皆さんとても良い笑顔でプレゼントを受け取り、クリスマスを楽しまれました。二階生活介護では、職員のピアノ伴奏に合わせてクリスマスソングの「ジングルベル」、「赤鼻のトナカイ」、「あわてんぼうのサンタクロース」をマラカスや鈴と一緒に演奏したり、歌ったりして楽しめました。そして忘れてはいけないのは何と云ってもクリスマスケーキです! 今年もとても美味しそうに笑顔で召し上がる姿を見ることができて、大変すばらしい締めくくりができました。

毎年、協和冷熱工業株式会社様よりクリスマスケーキをご寄贈頂いております。本当にありがとうございます。

二階生活介護事業 山本里奈



就労継続支援B型事業

就労継続支援B型事業では、毎日楽しくお仕事に取り組まれています。最近ではパイプのネジ付けの仕事が新しく受注作業に加わり、久しぶりにショッピングバックの紐付けの受注作業が来て、皆さんとても喜んで作業を行っていました。お仕事以外の面でも、月から毎月第三土曜日にお楽しみ会を新たに始めました。お楽しみイベントではお菓子作りやカードづくりなどの工作活動を主に行っています。利用者さんの皆さんはこのイベントをかなり前から楽しみにされており、「お楽しみ会の為に仕事を頑張る!」と作業意欲にも繋がっています。当日も楽しまれており、「楽しかった」との声を多くいただきました。今後もこのようなイベントを続けていき、利用者さんの作業意欲アップの一つに繋がっていきたいと思えます。

就労継続支援B型事業 関崎優紀



第三者委員

私たち福祉サービス提供者は常に利用者の立場に立ち、サービスの質の向上に努めています。苑へのご意見・ご要望等がありましたら、どうぞ「苦情受付担当」もしくは「第三者委員」にお気軽にご相談ください。

○相談・お問い合わせ
苦情受付担当者 飯野美穂 河野昭信
03-3940-9182
苦情解決責任者 高井清志 03-3940-9181
第三者委員 熊倉 久美子 03-3918-3601
権利擁護センター「あんしん北」北区岸町1-6-17
03-3908-7280

「虐待防止体制」について

当苑では「障害者虐待等防止マニュアル」を整備し、その中には倫理綱領・行動指針等を定め、虐待の発生の防止に努めています。今後は「体制整備チェックリスト」を活用し、ご利用者の皆様や地域の皆様の協力を得ながら広く虐待防止体制作りを進めて参ります。

『不適切支援』と思われる事象等、お気づきの点がありましたら、虐待防止責任者(小関)までご連絡いただければ幸いです。

発行元 社会福祉法人 晴山会
就労・生活支援センター 飛鳥晴山苑
東京都北区西ヶ原4-51-1

TEL 03-3940-9181 FAX 03-3940-9185

